

第4章

「東北発・新型アグリツーリズム」への挑戦者Ⅲ

—山形県立農林大学校における挑戦者を育成する課題と方向性—

安部 雅人

(公益財団法人東北活性化研究センター)

第1節 はじめに

「東北発・新型アグリツーリズム」に必要な「人材育成」に求められているのは、「経営者能力」の向上である。そのためには、将来の「農業」を担う「若年層」を受講対象とした教育機関における「アグリツーリズム養成講座」の設置が求められる。これは、将来、「就農」を志す「若年層」を対象とした「アグリツーリズム教育」を実践する必要性があることから、「就農」を志して学んでいる農業高校・農林大学校等における教育カリキュラムとして、「アグリツーリズム教育」を導入することが必要であるということである。

山形県立農林大学校では、「アグリツーリズム教育」を学校カリキュラムの一環として実践しているわけではないものの、卒業生の多くが多岐多種にわたる「農業分野」に進出して若き「農業経営」者として活躍していることから、「アグリツーリズム講座」のカリキュラムを導入した場合の効果性が高いものと推察される。

よって、本章では、山形県立農林大学校を対象に実施した「アグリツーリズム」に関するアンケート調査結果について焦点をあてながら、将来的に「東北発・新型アグリツーリズム」への挑戦者として育成するための課題および方向性について考察するものである。

実際には、山形県立農林大学校を対象としたアンケート調査結果について分析し検証するものである¹(別頁・表 2(1)・(2)・(3)・(4)参照)。

第2節 山形県立農林大学校の組織概要および教育カリキュラム

山形県立農林大学校は、山形県北部の中心都市である新庄市に位置し、周囲は小高い丘陵が広がる自然豊かな環境に囲まれている。周辺には、山形県農業総合研究センター畜産試験場、山形県最上総合支庁農業技術普及課産地研究室等と隣接しており、試験研究部門の最先端技術に触れながら「農業」および「林業」を学ぶことができる²。

※ 筆者の許可なしの対外言及・引用は、お控え願います。本稿の全文または一部を引用・転載・複製する際には、必ず出所元を明記願います。

1 2017年11月3日、山形県立農林大学校に対してアンケート内容についての説明を行い、その後、本校内にて実施されたアンケート結果(※合計113名からの回答あり。)に基づいて分析したものである。

2 山形県立農林大学校は、1955年1月に新庄市松本のデンマーク農法指導農場の跡地に山形県立農業試験場経営伝習農場として創立したものである。その後、1978年に山形県立農業大学校となった。現在は、学校教育法が定める正規の学校であり、職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的として組織的な教育を行うことができる。1992

山形県立農林大学校卒業生の進路としては、表 1 のとおり、例年、「就農者」（卒業後すぐ、農業法人就職、研修後就農）と「就職者」（公務員、農協、農業関連産業、一般企業）が半分以上ずつとなっている。「就農者」および「就職者」の進路決定率は、過去 10 年間（2006 年～2015 年）で、ほぼ 100%となっている。

表1 山形県立農林大学校卒業生の進路状況（人数）

卒業年月	農業(就農)				就職						進学	合計
	卒業時	農業法人	研修後	計	公務員等	農協等	農業関連企業	一般企業	その他	計		
2007年3月	14	6	2	22	0	3	18	8	0	29	0	51
2008年3月	17	6	3	26	0	4	12	3	0	19	0	45
2009年3月	16	4	4	24	0	5	20	2	0	27	3	54
2010年3月	12	10	3	25	1	6	12	5	0	24	2	51
2011年3月	15	6	6	27	1	7	10	3	0	21	6	54
2012年3月	14	8	1	23	6	4	18	0	0	28	4	55
2013年3月	12	7	5	24	1	9	17	0	1	28	5	57
2014年3月	18	10	1	29	3	0	12	1	1	17	3	49
2015年3月	21	9	4	34	3	2	11	3	1	20	2	56
2016年3月	13	9	7	29	4	4	7	6	2	23	4	56

（出所）山形県立農林大学校, <http://ynodai.ac.jp/> (January 29, 2018) 参照。

また、山形県立農林大学校の学生は、1 学年 60 名定員の 7 つの経営学科から構成される養成部に在籍している。養成部には、「米や畑作物」を学ぶ「稲作経営学科」、「果樹」を学ぶ「果樹経営学科」、「野菜」を学ぶ「野菜経営学科」、「花き」を学ぶ「花き経営学科」、「酪農や肉牛」を学ぶ「畜産経営学科」、「農産物の加工技術」を学ぶ「農産加工経営学科」、「林業」を学ぶ「林業経営学科」（※2015 年度新設）があり、学生全員が 2 年間、寮生活をおくりながら、「農業」および「林業」に関する実践的な知識や技術を身につけている(写真 1・2・3・4・5・6 参照)³。

年 7 月には、米国・コロラド州、モーガン・コミュニティーカレッジと姉妹校を締結しており、2 年生は全員 9 月に渡米してモーガン・コミュニティーカレッジにて短期研修を受けている。2006 年度までは、「農業者研修教育施設」に位置付けられていたが、2007 年度から「専修学校」として認可されている。そのため 4 年制大学への 3 年次編入が可能となり、2007 年度以降の卒業生には「専門士」の称号が付与されるようになった。2016 年 4 月に林業経営学科の新設に伴い、校名を「山形県立農林大学校」に改称している。

3 2017 年 11 月 3 日、山形県立農林大学校より聞き取り。入学科は、5,650 円、授業料は、年額 118,800 円であり（2015 年度実績）、食費等の寮生活費、教科書代、実験実習着代、海外研修費等が自己負担となり、年額約 670,000 円となっている。（2015 年度実績）。100ha の広大なエリアが学習ステージとなっており、学生各自が「ほ場」1 区画、ハウス 1 棟を担当する等恵まれた環境で学ぶことができる。また、学生の男女比率は、例年、男子 70%、女子 30%くらいとなっている。1 年次には「農業」の基礎的な部分を幅広く学び、2 年次にはより専門的に学べるようなカリキュラムとなっている。例年、農業高校出身は 50%強で、普通・総合高校や商業・工業高校等、県内外から様々な学生が集まっている。卒業後に試験研究機関、国内の先進地や海外等で研修する制度もある。学生一人一人の希望に応じた多様な進路指導が行なわれている。

写真1. 山形県立農林大学校学舎



(出所) 筆者撮影。

写真2. 山形県立農林大学校学生寮



(出所) 筆者撮影。

写真3. 山形県立農林大学校園芸実習



(出所) 山形県立農林大学校HP参照。

写真4. 山形県立農林大学校林業実習



(出所) 山形県立農林大学校HP参照。

写真5. 山形県立農林大学校林業実習



(出所) 山形県立農林大学校HP参照。

写真6. 山形県立農林大学校生徒(全学科)集合風景



(出所) 山形県立農林大学校HP参照。

さらに、山形県立農林大学校では、2年間の「農業教育」の他に、「農業者」や「新規就農希望者」、「新規林業従事者」等を対象とした研修(新規就農支援研修、農業ビジネス支援研修、働きながら学ぶ農業入門講座、経営定着・発展支援研修、農業機械安全使用研修、農業理解促進研修、企業経営体育成研修、女性農業者育成研修、林業基礎研修等)があり、宿泊利用可能な研修施設「緑風館」に滞在しながら実施されている。近年では、「新規農業希望者」が増えており、特に女性の「新規農業希望者」の数が増えている⁴。

4 2017年11月3日、山形県立農林大学校より聞き取り。

他方、山形県立農林大学校の学生による販売実習の場として山形県立農林大学校敷地内を会場に「農大市場」(直売市場)が年6回開催されており、山形県立農林大学校の学生および研修生等が丹精込めて生産した「農産物」や「農産加工品」等が一般向けに販売されている(写真7・8・9・10・11・12参照)。

写真7. 山形県立農林大学校販売ブース



(出所) 山形県立農林大学校HP参照。

写真8. 山形県立農林大学校「学園祭」



(出所) 筆者撮影。

写真9. 山形県立農林大学校「農大市場」



(出所) 山形県立農林大学校HP参照。

写真10. 山形県立農林大学校「農大市場」



(出所) 山形県立農林大学校HP参照。

写真11. 山形県立農林大学校学園祭・農産物販売会



(出所) 筆者撮影。

写真12. 山形県産ブランド米「雪若丸」発表風景



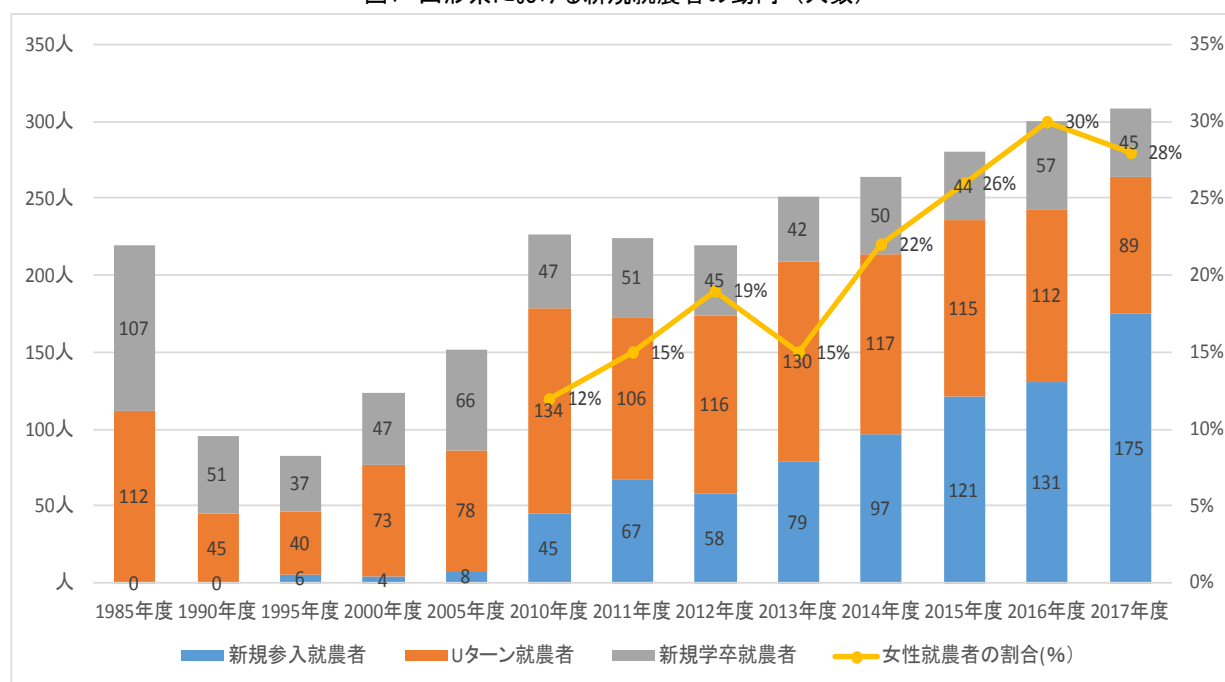
(出所) 山形県HP参照。

第3節 山形県における新規就農支援への貢献

山形県立農林大学校では、養成部における各学科を中心に山形県、関係機関、関係団体等とも密に連携しながら、「新規就農支援」に向けた取り組みを継続している。

例えば、図1のとおり、2017年度調査（平成2016年6月から平成2017年5月末までに「就農」）では、「新規就農者」が309人となり、2010年度から8年連続で200人を超えている⁵。昨年度の300人を9人上回り、調査を開始した1985年度以降で最多となっている⁶。

図1 山形県における新規就農者の動向（人数）



(出所) (山形県農林水産部 2017) をもとに筆者作成。

2017年度の特徴として、一つ目には、「新規参入就農者」(非農家出身者の「就農」)が増加したこと、二つ目には、「農業法人」等へ就職する「雇用就農」が6割近くまで増加したこと等があげられる⁷。

「新規就農者」が増えているということは、「農業」を通して、「アグリツーリズム」に携わる機会が増えるということである。そのためにも、「アグリツーリズム」において正しいマネジメント能力を身につければ、将来、「アグリツーリズム」を始めた際に収益の安定化を図れると共に、関連する知識や経験が「農業経営」の面においてもプラスに働くものと考えられる。

5 (山形県農林水産部 2017) 参照。

6 (山形県農林水産部 2017) 参照。

7 (山形県農林水産部 2017) 参照。

第4節 山形県立農林大学校における「アグリツーリズム」に係るアンケート調査結果

山形県立農林大学校における「アグリツーリズム」に係るアンケート調査結果については、表2(1)・(2)・(3)・(4)のとおりである(別頁参照)。また、その概要については、次のとおりである。

①「アンケートへの協力者」は、農林大学校であることから、「性別」としては、「男性」の数が多し。今回のアンケート調査では、「男性」が87名(構成比率:76.99%)、「女性」が26名(構成比率:23.01%)となっている。

②「アンケートへの協力者」の「年齢層」をみると、山形県立農林大学校の1学年学生の「20歳未満」が全体の58.41%と高く、次に同校2学年学生の「20歳以上～30歳未満」の構成比率が全体の29.20%を占めている。残りは、教職員若しくは一般の研修生の方々であり、「40歳以上～60歳未満」の構成比率が全体の12.39%を占めている。

③「アンケートへの協力者」である「教職員・学生種別」をみると、山形県立農林大学校の養成部・履修生として在籍している学生が96名(構成比率:84.96%)と高く、大部分を占めている。教員は、11名(構成比率:9.73%)となっており、職員は、3名(構成比率:2.65%)となっている。

④「アンケートへの協力者」の「教職員・学生の所属」をみると、「養成部・林業経営学科」が26名(構成比率:22.61%)と高く、次いで「養成部・野菜経営学科」が25名(構成比率:21.74%)であり、「養成部・果樹経営学科」が22名(構成比率:19.13%)となっている。これら3つの学科だけで73名となり全体の63.48%を占めている。

⑤「アンケートへの協力者」の「趣味」についてみると、⁸「音楽鑑賞」が50名(構成比率:20.41%)と高く、「映画鑑賞」と「読書」が各々、30名(構成比率:12.24%)ずつとなっており、「球技」等が25名(構成比率:10.20%)、「アウトドアスポーツ」が23名(構成比率:9.39%)、「インドアスポーツ」が10名(構成比率:4.08%)となっている。

⑥これまで「アグリツーリズム」を「学習した経験」については、「学習経験がある」が43名(構成比率:38.05%)であり、「学習経験がない」が70名(構成比率:61.95%)となっている。

⑦「アグリツーリズム」を「学習した機会があった場所」については、「高校」が33名(構成比率:70.21%)となっている。次に「研修会」が6名(構成比率:12.77%)となっている。「研修会」については、教職員による参加が多いようである。その他、「専門学校」が4名(構成比率:8.51%)、「短大」が3名(構成比率:6.38%)となっている。

8 この質問項目は、将来において「アグリツーリズム」を担い「農業経営者」ともなる可能性が高い山形県立農林大学校の学生が何に関心を持っているのかを確認したものである。

⑧「アグリツーリズム」を学習した「回数」については、「2回～4回」が22名(構成比率:55.00%)となっている。次に、「1回のみ」が9名(構成比率:22.50%)となっている。また、「5回～9回」が5名(構成比率:12.50%)となっており、「10回以上」が4名(構成比率:10.00%)となっている。

⑨家族が「アグリツーリズム」等の「農村観光」に取り組んでいるかについては、「はい」が2名(構成比率:1.77%)しかいない。残りの「いいえ」の111名(構成比率:98.23%)の家族は、「アグリツーリズム」等の「農村観光」に取り組んでいないことになる。

⑩「アグリツーリズム」等の「農村観光」に興味があるかについては、「少しある」が38名(構成比率:33.63%)となっており、「大変ある」が7名(構成比率:6.19%)となっている。計45名(構成比率:39.82%)が「アグリツーリズム」等の「農村観光」に興味を示している。

それに対して、「あまりない」が22名(構成比率:19.47%)であり、「ほとんどない」が21名(構成比率:18.58%)となっている。よって、計43名(構成比率:38.05%)が「アグリツーリズム」等の「農村観光」にあまり興味を示していないことになる。「どちらでもない」が24名(構成比率:21.24%)となっている。

⑪将来、「農業経営」を行う際に「アグリツーリズム」等の「農村観光」に挑戦したいかについては、「少しある」が33名(構成比率:29.20%)となっている。「大変ある」が7名(構成比率:6.19%)となっている。計40名(構成比率:35.39%)が「アグリツーリズム」等の「農村観光」への挑戦意欲を示している。

それに対して、「あまりない」が21名(構成比率:18.58%)となっている。「ほとんどない」が24名(構成比率:21.24%)となっている。よって、計45名(構成比率:39.82%)が「アグリツーリズム」等の「農村観光」への挑戦意欲を示していないことになる。

⑫山形県立農林大学校に「アグリツーリズム」のマネジメント(経営)等に関する授業等があれば聴講したいかについては、「少し聴講したい」が33名(構成比率:29.20%)となっており、「是非聴講したい」が13名(構成比率:11.50%)となっている。計46名(構成比率:40.70%)が「アグリツーリズム」のマネジメント(経営)等に関する授業等を聴講したいとしている。

それに対して、「あまり聴講したくない」が13名(構成比率:11.50%)となっている。「全く聴講したくない」が13名(構成比率:11.50%)となっている。よって、計26名(構成比率:23.00%)が「アグリツーリズム」のマネジメント(経営)等に関する授業等を聴講することに対して関心を示していないことになる。ただし、「どちらでもない」が40名(構成比率:35.40%)となっている。これは、授業の必修科目等であれば、学生としては、受講することも致し方ないといった態度がみえる。

⑬参加してみたい「アグリツーリズム」の「体験型・学習型のプログラム」については、「農産物収穫(食事付)体験」が48名(構成比率:19.67%)となっており、「各種クラフト制作(木工・石鹸・ロウソク・和紙等)(土産付)体験」が35名(構成比率:14.34%)、「森林散策体験」が30名(構成比率:12.30%)、「牧場(食事付)体験」が28名(構成比率:11.48%)、「漁業(食事付)体験」が28名(構成比率:11.48%)、「地元料理(食事付)体験」が25名(構成比率:10.25%)、「林業体験(食事付)体験」が19名(構成比率:7.79%)、「地元食品手作り体験」が17名(構成比率:6.97%)となっている。

「森林散策」・「農業」・「酪農」・「水産加工」・「漁業」等の「体験プログラム」の参加希望については、全体で 165 名(構成比率:67.64%)となっており、これらの「体験プログラム」については、「若年層」を中心に高い関心があることが判る。

⑭「アグリツーリズム」の「体験型・学習型のプログラム」の参加料金については、「2,000 円以上～3,000 円未満」が 33 名(構成比率:29.20%)となっており、次いで「4,000 円以上～5,000 円未満」が 20 名(構成比率:17.70%)となっている。高価格帯の「5,000 円以上」は、5 名(構成比率:4.42%)となっているに。全体的に「2,000 円以上～5,000 円未満」の価格帯が多いようであり、69 名(構成比率:61.06%)となっている。

⑮「アグリツーリズム」のマネジメント能力を高めるために「人材育成」を図るための学習の場の種類については、高校・専修学校での「アグリツーリズム」学科が 48 名(構成比率:35.56%)を占めており、次いで「アグリツーリズム農村塾」が 27 名(構成比率:20.00%)となっており、「外部ツーリズム講演会」が 21 名(構成比率:15.56%)となっている。DMO (Destination Management Organization : デスティネーション・マネジメント組織)については、20 名(構成比率:14.81%)となっている。「地域学塾」が 13 名(構成比率:9.63%)となっている。将来、「農業経営従事者」若しくは「林業経営従事者」として働くことの多い山形県立農林高等学校の関係者にとっては、高校・専修学校での「アグリツーリズム」学科および「アグリツーリズム農村塾」が 75 名(構成比率:55.56%)を占めており、「アグリツーリズム」のマネジメント能力を高め「人材育成」を図るための学習の場として期待されていることが判る。

⑯地元の「農産物」や「食材」を使用した「食事」の提供を受け、「本物志向の古民家リノベーションをした建物」に「農家民泊」して宿泊する場合の 1 泊あたりの宿泊料金(朝食・夕食の 2 食付)の妥当性については、「10,000 円以上～15,000 円未満」が 26 名(構成比率:23.01%)となっており、「8,000 円以上～10,000 円未満」が 19 名(構成比率:16.81%)となっている。「5,000 円以上～7,000 円未満」が 17 名(構成比率:15.04%)となっている。回答者の価値観としては、「10,000 円」を境に価値観が二つに分かれているようである。「10,000 円以上」が 51 名(構成比率:45.13%)となっているのに対して、「10,000 円未満」が 59 名(構成比率:52.21%)となっている。

⑰上記の「本物志向の古民家リノベーションをした宿泊施設」の経営者だとした場合、安定して経営上の利益確保を計るための「1 泊あたりの宿泊料金(朝食・夕食の 2 食付)の妥当性」については、「10,000 円以上～15,000 円未満」が 25 名(構成比率:22.12%)となっており、「15,000 円以上～20,000 円未満」が 19 名(構成比率:16.81%)となっている。

経営の安定を図るためには、最低でも「1 泊あたりの宿泊料金(朝食・夕食の 2 食付)」が「10,000 円以上」になることについては、計 66 名(構成比率:58.41%)が「妥当」と考えているようである。

しかしながら、「1 泊あたりの宿泊料金(朝食・夕食の 2 食付)」が「10,000 円未満」の料金を設定する考えが 44 名(構成比率:38.94%)となっている。これは、山形県立農林高等学校の学生が「農家民宿」等にて宿泊した時の経験を反映しているからだと思われる。

表2(1) 山形県立農林大学校における「アグリツーリズム」に係るアンケート調査結果(集計)

質問項目	回答項目	合計	集計	構成比率
①性別はどちらか？	<input type="checkbox"/> 男	87	113 (※小計)	76.99%
	<input type="checkbox"/> 女	26		23.01%
②年齢層はどこの区分に属するか？	<input type="checkbox"/> 60歳以上	0	113 (※小計)	0.00%
	<input type="checkbox"/> 50歳以上～60歳未満	8		7.08%
	<input type="checkbox"/> 40歳以上～50歳未満	6		5.31%
	<input type="checkbox"/> 30歳以上～40歳未満	0		0.00%
	<input type="checkbox"/> 20歳以上～30歳未満	33		29.20%
	<input type="checkbox"/> 20歳未満	66		58.41%
③教職員・学生種別はどちらか？	<input type="checkbox"/> 教員	11	113 (※小計)	9.73%
	<input type="checkbox"/> 職員	3		2.65%
	<input type="checkbox"/> 養成部・履修生	96		84.96%
	<input type="checkbox"/> 研修部・研修生	3		2.65%
	<input type="checkbox"/> その他()	0		0.00%
④所属はどちらか？	<input type="checkbox"/> 養成部・稲作経営学科	14	115 (※所属重複あり)	12.17%
	<input type="checkbox"/> 養成部・果樹経営学科	22		19.13%
	<input type="checkbox"/> 養成部・野菜経営学科	25		21.74%
	<input type="checkbox"/> 養成部・花き経営学科	7		6.09%
	<input type="checkbox"/> 養成部・畜産経営学科	8		6.96%
	<input type="checkbox"/> 養成部・農産加工経営学科	5		4.35%
	<input type="checkbox"/> 養成部・林業経営学科	26		22.61%
	<input type="checkbox"/> 研修部(新親就農支援研修)	1		0.87%
	<input type="checkbox"/> 研修部(就農定着支援研修)	1		0.87%
	<input type="checkbox"/> 研修部(農業ビジネス支援研修)	1		0.87%
	<input type="checkbox"/> 研修部(農業経営革新支援研修)	0		0.00%
	<input type="checkbox"/> 研修部(農業機械安全使用研修)	1		0.87%
	<input type="checkbox"/> 研修部(農業理解促進研修)	0		0.00%
	<input type="checkbox"/> その他()	4		3.48%
	⑤趣味は何か？	<input type="checkbox"/> 読書		30
<input type="checkbox"/> 絵画鑑賞		3	1.22%	
<input type="checkbox"/> 演劇鑑賞		5	2.04%	
<input type="checkbox"/> 音楽鑑賞		50	20.41%	
<input type="checkbox"/> 映画鑑賞		30	12.24%	
<input type="checkbox"/> 音楽演奏		5	2.04%	
<input type="checkbox"/> カラオケ		22	8.98%	
<input type="checkbox"/> 散歩		11	4.49%	
<input type="checkbox"/> 球技(※バレー・バスケ・テニス・サッカー・野球等)		25	10.20%	
<input type="checkbox"/> ジョギング		4	1.63%	
<input type="checkbox"/> 登山		4	1.63%	
<input type="checkbox"/> 武術・格闘技		3	1.22%	
<input type="checkbox"/> アウトドアスポーツ		23	9.39%	
<input type="checkbox"/> インドアスポーツ		10	4.08%	
<input type="checkbox"/> プラモデル		1	0.41%	
<input type="checkbox"/> ゲーム		9	3.67%	
<input type="checkbox"/> その他		10	4.08%	

(出所) 山形県立農林大学校学生および教職員等からのアンケート回答をもとに筆者作成。

表2(2) 山形県立農林大学校における「アグリツーリズム」に係るアンケート調査結果(集計)

質問項目	回答項目	合計	集計	構成比率
⑥「アグリツーリズム」を学習した経験があるのか？	はい	43	113 (※小計)	38.05%
	いいえ	70		61.95%
⑦上記を学習した場所はどこか？	<input type="checkbox"/> 中学校	0	47 (※「はい」のみ。所属重複あり)	0.00%
	<input type="checkbox"/> 高校	33		70.21%
	<input type="checkbox"/> 専門学校	4		8.51%
	<input type="checkbox"/> 短大	3		6.38%
	<input type="checkbox"/> 大学・大学院	0		0.00%
	<input type="checkbox"/> 研修会	6		12.77%
	<input type="checkbox"/> その他 ()	1		2.13%
	<input type="checkbox"/> 観光塾	0		0.00%
⑧上記を学習した回数はどれくらいか？	<input type="checkbox"/> 1回のみ	9	40 (※小計)	22.50%
	<input type="checkbox"/> 2回～4回	22		55.00%
	<input type="checkbox"/> 5回～9回	5		12.50%
	<input type="checkbox"/> 10回以上	4		10.00%
⑨家族が「アグリツーリズム」等の「農村観光」に取り組んでいるか？	はい	2	113 (※小計)	1.77%
	いいえ	111		98.23%
⑩「アグリツーリズム」等の「農村観光」に興味があるか？	<input type="checkbox"/> 大変ある	7	113 (※小計)	6.19%
	<input type="checkbox"/> 少しある	38		33.63%
	<input type="checkbox"/> どちらでもない	24		21.24%
	<input type="checkbox"/> あまりない	22		19.47%
	<input type="checkbox"/> ほとんどない	21		18.58%
	<input type="checkbox"/> 不明	1		0.88%
⑪将来、「農業経営」を行う際に「アグリツーリズム」等の「農村観光」に挑戦したいと思うか？	<input type="checkbox"/> 大変ある	7	113 (※小計)	6.19%
	<input type="checkbox"/> 少しある	33		29.20%
	<input type="checkbox"/> どちらでもない	27		23.89%
	<input type="checkbox"/> あまりない	21		18.58%
	<input type="checkbox"/> ほとんどない	24		21.24%
	<input type="checkbox"/> 不明	1		0.88%

(出所) 山形県立農林大学校学生および教職員等からのアンケート回答をもとに筆者作成。

表2(3) 山形県立農林大学校における「アグリツーリズム」に係るアンケート調査結果(集計)

質問項目	回答項目	合計	集計	構成比率
⑫本学にアグリツーリズムのマネジメント(経営)等に関する授業等があれば聴講したいか?	<input type="checkbox"/> 是非聴講したい	13	113(※小計)	11.50%
	<input type="checkbox"/> 少し聴講したい	33		29.20%
	<input type="checkbox"/> どちらでもない	40		35.40%
	<input type="checkbox"/> あまり聴講したくない	13		11.50%
	<input type="checkbox"/> 全く聴講したくない	13		11.50%
	<input type="checkbox"/> 不明	1		0.88%
⑬アグリツーリズムの体験型・学習型の様々なプログラムに「お客さま」として参加するとしたらどのようなプログラムを選ぶか?	<input type="checkbox"/> 森林散策体験	30	244(※複数回答あり)	12.30%
	<input type="checkbox"/> 農産物収穫(食事付)体験	48		19.67%
	<input type="checkbox"/> 牧場(食事付)体験	28		11.48%
	<input type="checkbox"/> 地元食品手作り体験	17		6.97%
	<input type="checkbox"/> 各種クラフト製作(木工・石鹸・ロウソク・和紙等)(土産付)体験	35		14.34%
	<input type="checkbox"/> 海産物手作り(土産付)体験	12		4.92%
	<input type="checkbox"/> 林業体験(食事付)体験	19		7.79%
	<input type="checkbox"/> 地元料理(食事付)体験	25		10.25%
	<input type="checkbox"/> 漁業(食事付)体験	28		11.48%
	<input type="checkbox"/> その他()	0		0.00%
	<input type="checkbox"/> 不明	2		0.82%
	⑭上記の参加料金は、いくらかが妥当か?	<input type="checkbox"/> 5,000円以上		5
<input type="checkbox"/> 4,000円以上～5,000円未満		20	17.70%	
<input type="checkbox"/> 3,000円以上～4,000円未満		16	14.16%	
<input type="checkbox"/> 2,000円以上～3,000円未満		33	29.20%	
<input type="checkbox"/> 1,000円以上～2,000円未満		17	15.04%	
<input type="checkbox"/> 無料～1,000円未満		20	17.70%	
<input type="checkbox"/> 不明		2	1.77%	
<input type="checkbox"/> 不明		2	1.77%	
⑮アグリツーリズムのマネジメント能力を高めるために人材育成を図るために、どのようなタイプの学習の場が必要か?	<input type="checkbox"/> アグリツーリズム農村塾	27	135(※複数回答あり)	20.00%
	<input type="checkbox"/> 高校・専修学校でのアグリツーリズム学科	48		35.56%
	<input type="checkbox"/> 地域学塾	13		9.63%
	<input type="checkbox"/> 外部ツーリズム講演会	21		15.56%
	<input type="checkbox"/> DMO組織	20		14.81%
	<input type="checkbox"/> その他()	4		2.96%
	<input type="checkbox"/> 不明	2		1.48%

(出所) 山形県立農林大学校学生および教職員等からのアンケート回答をもとに筆者作成。

表2(4) 山形県立農林大学校における「アグリツーリズム」に係るアンケート調査結果(集計)

質問項目	回答項目	合計	集計	構成比率
⑩古民家リノベーションをした農家の建物が注目されています。地元の農産物や食材を使用した料理の提供を受け、本物志向の古民家リノベーションをした農家の建物に宿泊するとしたら1泊あたりの宿泊料金(朝食・夕食の2食付)は、いくらくらいが妥当と思うか？	<input type="checkbox"/> 30,000円以上	4	113 (※小計)	3.54%
	<input type="checkbox"/> 25,000円以上～30,000円未満	4		3.54%
	<input type="checkbox"/> 20,000円以上～25,000円未満	4		3.54%
	<input type="checkbox"/> 15,000円以上～20,000円未満	13		11.50%
	<input type="checkbox"/> 10,000円以上～15,000円未満	26		23.01%
	<input type="checkbox"/> 8,000円以上～10,000円未満	19		16.81%
	<input type="checkbox"/> 7,000円以上～8,000円未満	10		8.85%
	<input type="checkbox"/> 5,000円以上～7,000円未満	17		15.04%
	<input type="checkbox"/> 3,000円以上～5,000円未満	10		8.85%
	<input type="checkbox"/> 3,000円未満	3		2.65%
	<input type="checkbox"/> 不明	3		2.65%
⑪上記宿泊施設の経営者だとしたら、1泊あたりの宿泊料金(朝食・夕食の2食付)をいくらくらいに設定すれば、安定して経営上の利益を確保できると思うか？	<input type="checkbox"/> 30,000円以上	4	113 (※小計)	3.54%
	<input type="checkbox"/> 25,000円以上～30,000円未満	5		4.42%
	<input type="checkbox"/> 20,000円以上～25,000円未満	13		11.50%
	<input type="checkbox"/> 15,000円以上～20,000円未満	19		16.81%
	<input type="checkbox"/> 10,000円以上～15,000円未満	25		22.12%
	<input type="checkbox"/> 8,000円以上～10,000円未満	17		15.04%
	<input type="checkbox"/> 7,000円以上～8,000円未満	9		7.96%
	<input type="checkbox"/> 5,000円以上～7,000円未満	8		7.08%
	<input type="checkbox"/> 3,000円以上～5,000円未満	8		7.08%
	<input type="checkbox"/> 3,000円未満	2		1.77%
	<input type="checkbox"/> 不明	3		2.65%

(出所) 山形県立農林大学校学生および教職員等からのアンケート回答をもとに筆者作成。

第5節 むすび

本アンケート調査結果については、主に将来の「農業経営者」を志す山形県立農林大学校の学生および山形県立農林大学校の教職員による「アグリツーリズム」についての意識を反映している。

「アグリツーリズム」についての「学習経験」については、回答者全体の4割弱程度の回答者が「学習経験がある」としているが、その内、7割の回答者が農業高校等の在学時に経験している。しかしながら、その受講回数は、2回～4回程度が回答者全体の5割強となっている。

また、家族が「アグリツーリズム」等の「農村観光」に取り組んでいる回答者がほとんどいないことから、身近なところで「アグリツーリズム」の「魅力」や「経営実態」等を肌で感じる機会が少ないといえる。

他方、「アグリツーリズム」等の「農村観光」に対しては、回答者全体の4割弱程度が興味を示しているものの、逆に回答者全体の4割弱程度については、興味を示していない。それでも、回答者全体の2割程度がどちらでもないとしている。

将来、「農業経営」を行う際に「アグリツーリズム」等の「農村観光」に挑戦したいかについては、回答者全体の3割強程度が「アグリツーリズム」等の「農村観光」への挑戦意欲を示している中で、回答者全体の4割程度が山形県立農林大学校の教育カリキュラムとして「アグリツーリズム」のマネジメント(経営)等に関する授業等があれば聴講したいとしている。

参加してみたい「アグリツーリズム」の「体験型・学習型のプログラム」については、回答者全体の7割弱程度が「農食」、「林業」、「漁業」等の関係の「体験プログラム」を希望していることから、「若年層」を中心に、これらの「体験プログラム」については、高い関心があることが判る。

「アグリツーリズム」の「体験型・学習型のプログラム」の参加料金については、回答者全体の6割程度が2,000円以上～5,000円未満の価格帯が妥当している。これは、第1章にて示した一般的にみられる「アグリツーリズム」の「体験型・学習型のプログラム」の価格帯と合致している。

将来、「農業経営従事者」若しくは「林業経営従事者」として働く機会を持つ可能性が高い山形県立農林大学校の学生を中心に、その5割強が「アグリツーリズム」のマネジメント能力を高め、「人材育成」を図るための「学習の場」として高校・専修学校での「アグリツーリズム学科」および「アグリツーリズム農村塾」に期待している。

こうした期待に応えるためには、第3章にて示したとおり、一般社団法人 くりはらツーリズムネットワークのような「アグリツーリズム養成塾」の組織等と横断的に連携を進めていく必要がある。そうすることで、山形県立農林大学校の学生は、「アグリツーリズム」についての「学習の場」を通して「アグリツーリズム」についての知識と経験を得ることができる。

地元の「農産物」や「食材」を提供した本物志向の古民家リノベーションをした宿泊施設の経営者になった場合の妥当な「1泊あたりの宿泊料金(朝食・夕食の2食付)」としては、回答者全体の6割弱が経営の安定を図るためには、最低でも「10,000円以上の宿泊料金」が妥当としている。

これは、第1章にして示した都市農村交流施設の「1泊あたりの宿泊料金(朝食・夕食の2食付)」よりも高いものである。

そうした背景には、山形県立農林大学校においては、学生自身が日頃から「農業生産コスト」を意識しながら学習しているために、「高品質のホスピタリティ」と「高品質のサービス」、そして、「高品質の農産物」等の食材を提供し続けていくためには、それ相応の価格による「アップ・マーケット」に対応した「高価格の宿泊料金の設定」が必要であることを認識しているからである⁹。

つまり、山形県立農林大学校の学生の多くは、「アグリツーリズム」におけるマネジメントの重要性について理解しているようである。

今後、「東北発・新型アグリツーリズム」を進展させていくためには、山形県立農林大学校の学生のように「農業経営」に従事する若い世代に対して積極的にそのノウハウを伝授することが必要である。そうした点では、「アグリツーリズム養成塾」の組織等による役割が重要となる。

参考文献

(日本語文献)

アレックス・カー、2000、『美しき日本の残像』、朝日新聞出版、153-172頁。

アレックス・カー、2014、『ニッポン景観論』、集英社、11-206頁。

山形県農林水産部、2017、「新規就農者の動向について」、山形県、1-2頁。

⁹ 2017年11月3日、山形県立農林大学校より聞き取り。